2023年11月19日
「はじめてのキリスト教」説教要約

神がさばかれる日

（マタイ24・3～14）

一、神のさばきをめぐって

なぜ人はさばかれるのでしょうか。人に危害を加えた動物が殺処分になることはありますが、神が人間以外の動物を罪に定められることはありません。しかし人は、神によってさばかれ、罪に定められる存在です。その理由は何なのでしょうか。神のかたちに似せて造られたからです。世界の始まりについて語っている創世記によれば、**〈神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された〉**とあります。天と地を創造された神は、言い換えるなら世界を始められた神は、人を神のかたちに似せて創造されました。人は、自分で物事を考え、自分の意思で決断します。人が決断をするとき、その領域に神が入って来ることはありません。そのくらい徹底して、自由意思を持つ者として創造されました。言い換えるなら、神のように、自分で決断する者として造られました。ですから人は、創造主からさばかれる者となりました。

使徒パウロは語りました。**「私の福音によれば、神のさばきは、神がキリスト・イエスによって、人々の隠された事柄をさばかれるその日に行われるのです」**（ローマ2・16）と。それは、キリストがもう一度やって来られる日と重なります。すなわち、再臨の日です。

二、マタイ24章をどう読むか

かつて私が聖書に興味を持った理由は、聖書にはこれからの世界がどのようになって行くのかが書かれているということでした。こうして世の終わりについて関心を持ち、聖書を、将来がどうなるかを「予言」している書として興味を持ちました。ですが、今はそのような読み方はしていません。なぜなら、未来は未来であって、どうなるかはだれにも分からないと考えるからです。将来をご存じなのは、神だけです。歴史は、ちょっとした出来事によって、オセロゲームのようにコロコロと変わって行くものですから、大雑把にだけ捉えておくのが良いと思うからです。すなわち、やがて困難な時代となり、キリストがもう一度お出でになって、新しい時代が始まると。そういうわけで、今は聖書をどのように読んでいるのかと申しますと、人として生まれられたイエス・キリストが神であり、救い主であると証言している書として読んでいます――当然と言えば当然ですが――。

マタイが福音書を執筆したとき、すでにエルサレムの神殿は無かったと考えられます。紀元70年のこと、第一次ユダヤ戦争においてローマ軍が攻めて来て、神殿を徹底的に破壊したからです。そういうわけで、マタイの福音書が発行されたとき、マタイと当時の教会員たちは、主イエスが**「どの石も崩されずに、ほかの石の上に残ることは決してありません」**とおっしゃったとおりに、神殿が徹底的に破壊されてしまった姿を見ていました。当時の教会は、「かつてイエスがおっしゃったとおりになった」という思いを持っていたはずです。そのような状況にあって、マタイは福音書を著したわけですから、当然のこと、単なる記録として記したのではありません。「神殿はなくなってしまった。なのに、イエスの来臨はまだ来ていない。いつ再臨があるのか。世の終わりの時には何が起こるのか」という、教会が抱えていた疑問を、主イエスに問うています。すなわち聖霊なる神に問うています。それが、3節のことばです。**「お話しください。あなたが来られ、世が終わる時のしるしは、どのようなものですか」**と。教会は、キリストが再び来られて、世界が終わることを知っていました。このようにして聖書を読んで行くとき、より現実味のある書として迫ってまいります。

三、神がさばかれる日

私たちが心すべきは、神の善きご計画を信じることです。なぜなら神は、私共の罪を贖うために人となって生まれられ、十字架で死んでくださり、神は御子イエス・キリストをよみがえらされたからです。この神を見上げるなら、耐え忍ぶことができます。13節です。**〈しかし、最後まで耐え忍ぶ人は救われます。〉**と語られています。さらに14節をご覧ください。**〈御国のこの福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての民族に証しされ、それから終わりが来ます。〉**と主は語られました。どうやって、キリストの福音が全世界に宣べ伝えられるのでしょうか。私共が行う、伝道によってでしょうか。それも必要です。ですが、それだけでは間に合いません。キリストの福音は、神の不思議な摂理によって、じわっと浸透して行く性質を持っていると思われます。特に社会が、世界が病んできたときです。人の罪の問題を根本から解決できるのは、キリストの福音以外にはありません。紀元1世紀から3世紀にかけて、当時のローマ帝国が治める中で、なぜ福音が広まったのでしょうか。ローマ帝国に蔓延する罪の問題を解決できるものが、キリストの福音にあったからです。今世界は、キリストの福音でなければいやされない方向に向かっています。私共は、日々忠実に主の前に生きて行くことを目指し、主がなされるわざを、眼を開いてじっくり見たいと思います。もちろん、祈りつつ、あかしをしつつですが。